



2020年12月28日

Vol
143

コロナ禍でも上昇した2020年の株式市場 ～2021年も長期の視点で前向きな資産運用を～

2020年の日米の株式市場は新型コロナウイルス感染拡大の影響による景気悪化見通しから、3月中旬にかけて大幅下落となりました。しかし、その後は各国政府の財政出動や金融緩和に加え、経済活動の再開などを背景に回復基調となりました。

今年も残りわずかとなりましたが、振り返ってみると、日経平均株価は年初来で+12.1%の上昇となり、11月には29年ぶりの高値を更新しました。そして、NYダウは年初来で+5.6%の上昇となり、3万米ドルの大台に乗せて推移しています。(2020年12月23日現在)

投資家の皆様の中には市場の反発局面で「やれやれ」とばかりに一旦売却された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ここで改めて皆様にお伝えしたいことは、資産運用は「長期の視点」で「前向きに」行なって頂きたいということです。

株価指数の推移



- 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
- 上記は過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



“経済は右肩上がりという考え方”

日興アセットが信じ、皆様におススメしたいのは、“経済は右肩上がり”という考え方です。これは、人間の欲に限りがない以上、「経済は右肩上がりで成長する」、「であるならそれを反映する株価は長期で右肩上がりになるはず」、といった意志ある楽観論です。

新型コロナウイルスの感染拡大は私たちの生活様式を変えるほど大きな影響を及ぼしました。しかし、過去を振り返ってみると、私たちは様々な危機を経験し、それを乗り越えてきたのです。

IMF(国際通貨基金)の2020年10月の経済見通しによると、世界経済は新型コロナウイルスの影響で今年の成長率は▲4.4%とするものの21年は+5.2%としており、景気回復が予想されています。

12月には欧米で新型コロナウイルスのワクチンが一部承認され、投与がはじまりました。ワクチンが存在することの安心感は経済活動にプラスに作用するとみられています。

IMF(国際通貨基金)の世界経済見通し(2020年10月発表)

	2020年 予測	2021年 予測
世界	-4.4%	5.2%
米国	-4.3%	3.1%
ユーロ圏	-8.3%	5.2%
日本	-5.3%	2.3%
中国	1.9%	8.2%
インド	-10.3%	8.8%



- 出所：IMF「World Economic Outlook Database, October2020」
- 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成



コールセンターからの小さなよみもの

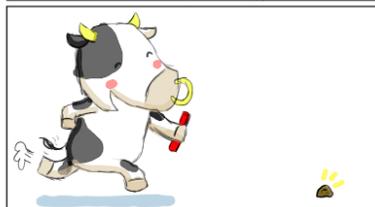
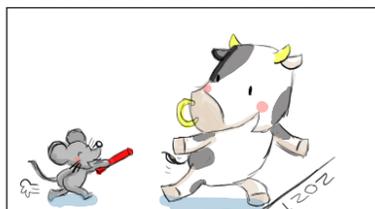
長期の時間軸で前向きな資産運用を

この時期になると日本の株式市場では「十二支」の過去のパフォーマンスを話題にすることがあります。2021年の干支である丑年の相場格言は「躓き(つまずき)」です。願わくば来年の株式市場は堅調に推移してほしいところですが、新型コロナウイルス感染第4波や景気回復に伴う金利上昇などの影響で短期的に市場が躓く(つまづく)局面があるかもしれません。

しかし、あえて短期の価格変動は無視し、将来の右肩上がり期待して市場に居続けたいものです。日興アセットは2021年も皆様に長期の時間軸で前向きな資産運用をすることをおススメします。

十二支別の相場格言

干支		格言
子(ね)		繁栄
丑(うし)		躓き(つまずき)
寅(とら)		千里を走り
卯(う)		跳ねる
辰(たつ)		天井
巳(み)		天井
午(うま)		尻下がり
未(ひつじ)		辛抱
申(さる)		騒ぐ
酉(とり)		騒ぐ
戌(いね)		笑い
亥(い)		固まる



nikko am

2 コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

